

## XenosagaI・II - 第十九話 解放 - Befreien - 下

Ω システム 

シオン： ここが Ω システムの内部――

ジン： 防衛システムは脆弱ですね。その分、オルムスの兵器が配備されているでしょうが。

ケイオス： どこかに、ゾハルを取り込んだプロト Ω があるはずだ。急ごう――

Jr.： ああ、わかったぜ。

――

シオン： あれが――プロト Ω！

??? 『ほう、よくぞここまでこられたものだ。』

教皇セルギウス『雑草の生命力というものも、なかなか侮りがたいな。』

Jr.： くだらねえこと、ほざいてんじゃねえ！

シオン： あなた――自分がなにをしているかわかってるの！？

???： ――俺も同感だなあ。

Jr.： ―――！

アルベド： いい加減、茶番の幕は下ろしてほしいもんだぜ。

その力は俺のものだ。てめえにその資格は――ない！

Jr.： アルベドォッ！

アルベド： よう、ルベド。そんなに嬉しそうな声出すなよ。

Jr.： ば、馬鹿野郎！ 嬉しいわけないだろ！

教皇セルギウス『少々遅かったようだな、ユーリエフの亡霊よ。

すべての段取りは整った後だ。貴様の存在意義は、もはやない。』

アルベド： うるせえ爺だな。

どうする、ルベド？ こいつをひねり潰すのに手を貸そうか。

教皇セルギウス『U.R.T.V. ー歪んだ時代より産まれた出来損ないめ！

おまえらのような下賤な生命に、我々の思想は理解できぬわ！』

アルベド： ふんっ！

教皇セルギウス『愚か者めープロト Ω と融合した私に、そのような攻撃が効くと思うてか。

愚鈍の報いを受けるがいいー！』

アルベド： ぐっ！

教皇セルギウス『どうした、この程度で堪えているのか？ 生体兵器ともあろう者が。』

アルベド： ぐわぁぁっ！

Jr.： アルベド！

アルベド： おいおい、なんだよ、この感覚はー

教皇セルギウス『力の摂理とは、ごく単純なものだ。強きが生き、弱きが消滅する。

貴様は、己が弱者であったことを、これから思い知るのだ。』

アルベド： いいなあ、ひゃはははー

おまえ、最高だよ！ 俺を破壊するのか！

Jr.： アルベドー

アルベド： よう、見てくれよ。ルベドー

俺が、この俺が破壊されるんだぜ。

ひゃはは、知らなかったなあ。俺も、消えることができるんだぜ。

いやぁ、こんな日が来るとは思わなかった。

あははは、俺が消えるか。完全なる破壊ってのもいいよなあー！

Jr.： ア、アルベドー！

アルベド： くっくくくく、ルベドよぉ、そんなに悲しまないでくれよ。

分子に還元されても、俺という質量が宇宙から消えるわけじゃないんだぜ。

なあー俺を構成していた分子を、存分に呼吸してくれよ、ルベド。

ひゃっははははー

ははははー

はははははー

ははははははーっ！

Jr.： アルベド――

（ああ――アルベドの分子が俺のなかへ――）

――――！！

（アルベド、お前――

そうだったのか――

なんでいままで、黙ってた――――）

――――――

畜生――――

――――――

Jr.： てめえっ！ よくもアルベドを――

教皇セルギウス『どうした？ 不倶戴天[ふぐたいてん]の敵ではなかったのか？

はっははは――――』

Jr.： あいつをブチのめしていいのは、――俺だけだ！

シオン： そうよ！ あなたなんかが、オモチャのように力を使って――――！

ケイオス： Jr.、シオン！

教皇セルギウス『ほう、面白い。貴様らの感情にあわせて、ゾハルもまた活性化していくわ。

まさか、貴様らもゾハルの民に匹敵する能力を持っているというわけか？』

ケイオス： （ダメだ――アニマの器が反応してる

このままじゃ、あの時を繰り返してしまう！

止めるべきなのか？ 僕の力を使ってでも――）

モモ： Jr. さん！

ジン： シオン、怒りに身をまかせてはいけません！

サクラ・ミズラヒ『ルベド、ダメだよ――』

フェブロニア『シオン、自分を取り戻して――』

シオン： ―――――

Jr.： はあ、はあ――――

忘れてたぜ。戦うときは、クールに、いかなきゃな――――

シオン： いま、自分がなにか巨大なものに呑み込まれかけた気がした――――

あれにすべてを委ねちゃいけない――――そうなのよね。

モモ： Jr. さん————

ジン： その通りです、シオン。よく戻ってこられましたね。

ケイオス： （Jr.、シオン、君たちは————）

教皇セルギウス『まったく、理解に苦しむ。なぜ、せっかく手に入れた力を使おうとせぬのだ？』

Jr.： ゴハルに溺れてるお前には、決してわからねえだろうな————

シオン： いま、わかったわ。人には触れてはいけない力がある。

そんなものに頼り続けてたら、あなた自身を滅ぼすことになるわよ。

教皇セルギウス『くだらん。虫けらに、鳳の気持ちは理解できぬものよ。

そろそろ、問答は終わるとしよう。私はこれから、裏切り者を討ちに行かねばならんのでな。

さあ、見るがよい。神から委ねられし、我らが力、そのすべてを————』

## 【 E.S. 戦 VS プロト Ω 】

教皇セルギウス『なぜだ——たとえば E.S. とはいえ、この Ω システムの中枢を————

こうなれば、U.M.N. 相転移砲——その力を見せるしかないようだ。』

シオン： 相転移砲————まさか！

教皇セルギウス『そうだ、貴様がいま怖れたとおり——宇宙のどこからでも、対象を射貫ける兵器だ。』

Jr.： て、てめえ————

教皇セルギウス『案ずるな、すぐに後を追わせてやる。

ヘルマーやユーリエフに、力足りなんだことを、天上で詫びるがよい。

U.M.N. 相転移砲——

—————発射！』

『——何事だ。

どうした——動け、動かんか！』

???： せっかく手にしたゴハルを、そのようにしか使えないとはな。

緋い外套の男： —————

蒼い外套の男： —————

黒い外套の男： —————

教皇セルギウス『————誰だ！』

蒼い外套の男： 脇役は脇役らしく、分をわきまえて欲しいもんだよな。

シオン：――あなたたちは！

教皇セルギウス『テーテストメントか――！』

シオン：（テストメント――？　それが彼らの――）

教皇セルギウス『わ、私はまだお前らに加わるつもりはないぞ！』

蒼い外套の男：安心しろ、貴様は天上へ直行だ。寄り道の予定は――ねえ。

教皇セルギウス『な、なに――』

『ぐう――熱い――ゾハルの力か――これは――あ、熱い――』

緋い外套の男：愚かな――

ゾハルの力、人に御し得るものではない。

教皇セルギウス『私は――ゾハルの民――その束ねる者――熱い――』

蒼い外套の男：だから、ゾハルに捧げられたのさ、光栄だろ。

教皇セルギウス『あああああああああああああああああああああっ！』

ジン：なんということだ――

シオン：ゾハルは！？

モモ：無事です、プロト Ω の残骸のなかに――！

Jr.：――あれか！

ジギー：だが、今度は我々が、奴らと一戦交えねばならぬということか――

黒い外套の男：――

蒼い外套の男：あん？　どうした、知り合いでもいるのか？

黒い外套の男：――

（――隊長、いや、ジャン――ジャン・ザウアー――）

ジギー：む――！

貴様――！　貴様は――

ヴォイジャアアアアッ！！

ケイオス：危ない、E.S.に戻って！

モモ：ジギー！

シオン：モモちゃん！

ジギー：うおおおおおっ！

黒い外套の男：――

ジギー：ぐっ！

ぐわあっ！！

モモ：ジギー！！

ジギー：モモ、なぜ出てきたーいや、すまない、大丈夫だーくっ。

黒い外套の男：ー時を費やしすぎた。なすべきことを始めよう。

緋い外套の男：そうだな、我らはそのために来た。

ゾハルよーその力によって、扉を開かんー

蒼い外套の男：そうらー未練がましく漂ってるお前に、還る場所ができたぜ。

Jr.：あれはーウ・ドゥ！ てめえら、いまなにをした！

黒い外套の男：いずれーわかる。

ジギー：ヴォイジャー！

黒い外套の男：ーーーさらばだ。

ジギー：待てっ！

くーーー！

ジン：いけない、みなさん！ プロト Ω を失った Ω システムが崩壊します！

すぐこの場から退避するのです！

ケイオス：モモちゃん、ジギーさん、はやく E.S. に乗って！

ジギー：ああ。行こう、モモ。

モモ：はい！

きゃあ！

ジギー：瓦礫がーこれでは E.S. のところに戻れない。

シオン：モモちゃん、ジギーさん！

モモ：ジギーーーー

ジギー：ー心配するな、俺にまかせろ。

モモ：なにをーーー！？ 無茶です、さっきのダメージが！

ジギー：心配するなー俺の体は作り直しがきく。ー下がっている。

うおおおおおっ！

モモ：ジギー！！

ジギー：ぐううー心配ーするな。急ぐぞ。

モモ：は、はいーーー

Jr.：ふう、はらはらしたぜ。

ジギー：―――すまん。

ジン：行きましょう、もう時間がない。

シオン：Ωの破片が――みんな、直撃しないように気をつけて！

Jr.：おう！

モモ：Jr.さん、これ――見てください！

Jr.：なんだ――

これは！

モモ：この宙域の時空連続体の構造が書き換えられていきます！こんな現象って―――

Jr.：！ 奴が目覚めたのか――

―――ウ・ドゥだ！

KOS-MOS：シオン、E.S.3機はこの宙域よりすみやかに脱出してください。

シオン：脱出って、あなたはどうするの――！

KOS-MOS：ウ・ドゥによる事象変移を抑制します。

シオン：KOS-MOS――でも、どうやって――

KOS-MOS：行きます。

シオン：KOS-MOS、KOS-MOS 一っ！

あれは――第三種兵装！？

じゃあ、まさか――ネピリムの言っていた未来って――

KOS-MOS：事象変移現象の中心座標を特定――双発相転移ユニットを展開します。

相手に質量調整0.17MPT、転移時間 $5.4 \cdot 10$ のマイナス38乗にセット。

システム展開半径126nm、発動します―――

シオン：KOS-MOS ッ！